

ベトナム・バリアブントウ州における気候変動を考慮した土地利用計画に関する研究

Thuong Tho TRAN

キーワード：土地利用計画、気候変動、土地利用変化、海岸浸食、干ばつ、海面上昇

1. 研究の背景と目的.

ベトナムのバリアブントウ州 (Ba Ria-Vung Tau) では、農地から建設地への転用が急速に進んでいる。この転用は、2010年から2020年の土地利用計画に基づき今後も継続する予定である。気候変動による海岸浸食が深刻化し、土地の損失も急増している。気候変動シナリオによれば、もし海面が1メートル上昇すれば、バリアブントウ州の約5.9%の土地面積が損失するとされている。気候変動を考慮した土地利用計画の対策を提案するため、本研究では、バリアブントウ州における気候変動の実態を把握し、土地利用の変化傾向、土地利用計画と気候変動政策の関連性、気候変動を考慮した土地利用計画に対するローカルプランナー（州以下の土地計画関連担当者）の行動とそれに対する意識及びコミュニティの意識を分析する。

2. 研究手法

本研究の実施には、文献調査を始め、様々な研究方法を使用した。具体的に、気候変動を考慮した土地利用計画に対するローカルプランナーの行動とそれに対する意識を解明するためにアンケート調査を実施した。また、気候変動を考慮した土地利用計画に対するコミュニティの視点を解明するため、42人でフォーカスグループディスカッションも実施した。政策分析においては、気候変動と土地利用政策の関連性を解明した。マップ分析では、浸水マップと土地利用計画マップを重ね合わせ、浸水エリアを解明した。

3. 研究結果

土地利用変化の分析、政策分析、マップ分析、アンケート調査やフォーカスグループディスカッションの結果、ブントウ市は海岸浸食、海面上昇や台風に対して最も脆弱である事が分かった。また土地利用計画によれば、今後、ブントウ市は大きな土地利用変化が見られると考えられる。一方で、二番目に海面上昇に脆弱なのがトントン郡 (Tan Thanh) である。この地区も今後、大きな土地利用変化があるとされる。最後に、スエンモック郡 (Xuyen Moc) は、干ばつに対して最も脆弱であり、台風と海岸浸食の影響も受けやすい地域である。土地利用での気候変動に伴う適応策がなされていない要因は、気候変動の影響評価、関係組織間の調整、利害関係者の参加が不足しているからである。また、2013年の土地法によれば、気候変動を考慮した土地利用計画が言及されているが、まだ初期段階とされている。

4. 結論

気候変動コーディネーションオフィスの設立は、人民委員会が気候変動を考慮した土地利用計画を実施する際の正しい判断を下す手助けをする（図1）。具体的に、オフィスは、各組織や研究機関の支援の下、各機関、団体とコミュニティを連結させ、気候変動による脆弱や土地利用の制約を情報やディスカッションを通じてする。これらを基に、政府機関が、自然災害に対する軽減対策や気候変動適応策を考えることになる。

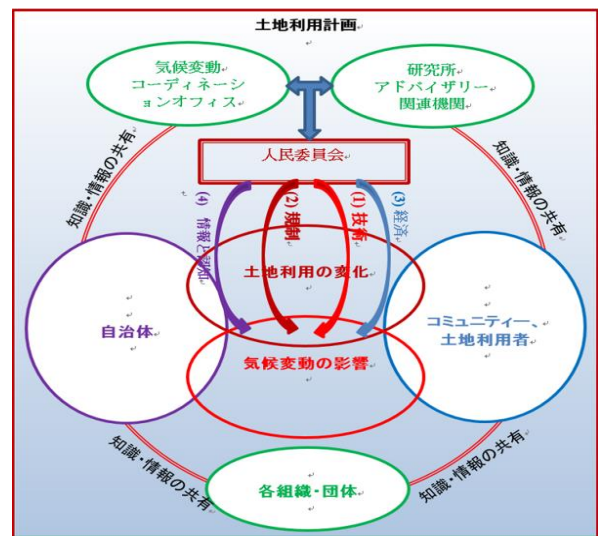


図-1 気候変動を考慮した土地利用計画の実施モデル図